

TOMMY  HILFIGER
WATCHES

TOMMY HILFIGER WATCHES
取扱説明、お手入れおよびメンテナンス、
保証およびサービス情報

国際

TOMMY HILFIGER WATCHES

「Tommy Hilfigerの腕時計コレクションをご購入頂きありがとうございます。丁寧に作られた他に類を見ない細かな作りや、防水性能。それがTommy Hilfigerブランドの特徴です。クールかつクラシックな腕時計。情熱的で、新しく、魅力的な時計です。」
– Tommy Hilfiger

お買い上げありがとうございました。

目次

取扱説明書

- (1) 2針/3針モデル
- (2) 日付/ビッグデイト表示モデル
- (3) 自動巻きモデル
- (4) デュアルタイム・モデル
- (5) 多軸モデル – タイプA
- (6) 多軸モデル – タイプB
- (7) 多軸モデル – タイプC
- (8) 多軸モデル – タイプD
- (9) アナログ・クロノグラフ
- (10) アナログ/デジタル・クロノグラフ – タイプA
- (11) アナログ/デジタル・クロノグラフ – タイプB
- (12) デュアルタイム・モデル – タイプB
- (13) 多軸モデル – タイプE

特別な機能

- (A) 交換可能なブレスレット/ストラップモデル – タイプA
- (B) 交換可能なブレスレット/ストラップモデル – タイプB

お手入れおよびメンテナンス

保証および

サービスの利用

(I) 2針/3針モデル



図 A

図の説明

1、2 - リューズの位置

リューズの位置:

- 位置 1 - 通常的位置。
リューズがケースに押し込まれた状態です。
- 位置 2 - 時刻の設定:
いずれかの方向にリューズを回転させます。

(2) 日付/ビッグデイト表示モデル



図 A

図の説明

1、2、3 - リューズの位置

A - 秒針

B - 日付表示

リューズの位置:

位置 1 - 通常の位置。リューズがケースに押し込まれた状態です。

位置 2 - 日付の設定*:

リューズを時計回りに回転させます。

備考: 曜日/日付の表示があるモデルについて:

日付を設定する場合はリューズを時計回りに、曜日を設定する場合は反時計回りに回転させます。

位置 3 - 時刻の設定:

いずれかの方向にリューズを回転させます。

*注意: 各針が午後9:00～午前3:00の間にある場合は日付を変更しないでください。それにより、カレンダーの機構が損なわれるおそれがあります。

備考: 日付を設定している間も、時計の機能は影響を受けません。時計が機能している間、午後9:00～午前3:00の間に日付が徐々に変化していきます。

(3) 自動巻きモデル



図 A

図の説明

1、2 - リューズの位置

日常的な腕の動作によって、ゼンマイが巻き上げられます。数日間身に付けなかったために時計が停止してしまった場合は、時間をセットする前にムーブメントを手巻きする必要があります。

ムーブメントを手巻きする方法:

リューズがケースに接した(1の位置にある)状態でリューズを時計回りに約15~20回転させた後、時計を丁寧かつ素早く数回振ってムーブメントを動かします。

時刻の設定方法:

時計が動いたらリューズを2の位置まで引っ張り、いずれかの方向に回転させて各針を適切な時間に合わせた後、リューズを1の位置に押し戻します。

(4) デュアルタイム・モデル

GMT 24 時間形式の針/スモールセコンド/日付表示付き



図 A

図の説明

1、2、3 - リューズの位置

- A - 24時間形式の針をセットするボタン
- H - 時針
- M - 分針
- S - スモールセコンドの針
- G - GMT 24 時間形式の針
- D - 日付表示
- T - 24-時間形式のメモリ

GMT 24時間形式の針、スモールセコンドのインダイヤル、日付表示があるクォーツ式のデュアルタイム・アナログ時計です。現地の時刻を時針H、分針M、秒針Sで示しつつ、2つ目のタイムゾーンの現在時刻を24時間形式の目盛Tと中央に固定されたGMTの針Gで表示します。

リューズの位置:

- 位置 1 - 通常動作時の位置。リューズがケースに押し込まれた状態です。
- 位置 2 - 日付とGMTの針を素早く補正:
日付Dを変更するには、リューズを時計回りに回転させます。
ボタンAを使ってGMTの針Gを動かし、24時間形式のメモリTに合わせます。
- 位置 3 - 時刻設定を行う位置。

時刻の設定方法:

1. リューズを3の位置まで引っ張り、時計を止めます。
2. リューズをいずれかの方向に回転させて各針を適切な時間に合わせます。
3. リューズを1の位置に押し戻します。時間が正しく設定された状態で時計が動き出します。

日付の補正方法(クイックモード):

1. リューズを2の位置まで引っ張ります。時計は止まりません。
2. 日付ウィンドウDに正しい日付が表示されるまで、リューズを時計回りに回転させます。
3. リューズを1の位置に押し戻します。

GMT 24時間形式の針を設定する方法:

1. リューズを2の位置まで引っ張ります。時計は止まりません。
2. 対象となる2つ目のタイムゾーンの時刻をGMTの針Gが24時間形式の目盛T上で指し示すまで、ボタンAを押してGMTの針を進めます。

備考:Aを1度押して離す作業を繰り返せば、針Gを1つずつ進めることができます。ボタンを押したままにすれば、針を一気に進めることができます。

3. リューズを1の位置に押し戻します。

(5) 多軸モデル - タイプ A

日付/24時間形式の針付き



図 A



図 B

図の説明

1, 2 - リューズの位置

- D - 日付表示の針
- H - 時針
- M - 分針
- S - 秒針
- W - 曜日表示の針
- A - 曜日修正ボタン
- B - 日付修正ボタン

多軸モデルは、インダイアルに月、曜日、日付などの情報を表示できる多機能ムーブメントによって駆動されます。これらの多軸モデルは時針、分針、秒針が中央に固定されており、小さな曜日と日付の表示があります。

リューズの位置:

- 位置1 - 通常的位置。リューズがケースに押し込まれた状態です。
- 位置2 - 日付の設定*: リューズを反時計回りに回転させます。
- 位置3 - 時刻の設定: いずれかの方向にリューズを回転させます。

時刻の設定方法:

1. 秒針Sが12時の位置になったら、リューズを引っ張って2の位置にします。そうすると時計(秒針S)が止まります。
 2. リューズをいずれかの方向に回転させて時針Hと分針Mを適切な時間に合わせます。その際、午前/午後にご注意ください。
- 備考: 時刻を設定する際、正しい時刻よりも4~5分進んだ位置まで分針Mを進めた後で、正確な分のところまで戻します。
3. リューズを1の位置に押し戻します。そうすると再び時計が動き出します。

曜日の設定方法*:

リューズが1の位置にある状態で、曜日表示の針Wが適切な曜日を指し示すまでボタンAを押します。この針は、ボタンを押す度に1日進みます。

日付の設定方法*:

リューズが1の位置にある状態でボタンBを押し、日付を示す針Dを適切な日付に合わせます。この針は、ボタンを押す度に1つつ進みます。

*重要: 午後9:00~午前4:00の間に日付が自動的に変更されている時に、曜日や日付の設定を行わないでください。翌日に日付が自動的に切り替わらなくなるおそれがあります。

(6) 多軸モデル – タイプ B

曜日/日付/24時間形式の針付き



図 A



図 B

図の説明

I、2 – リューズの位置

- D – 日付表示の針
- H – 時針
- M – 分針
- S – 秒針
- W – 曜日表示の針
- F – 24時間形式の針
- A – 曜日修正ボタン
- B – 日付修正ボタン

多軸モデルは、インダイアルに月、曜日、日付などの情報を表示できる多機能ムーブメントによって駆動されます。多軸モデルは時針、分針、秒針が中央に固定されており、小さな曜日と日付の表示と24時間形式の針があります。

時刻の設定方法:

1. 秒針Sが12時の位置になったら、リューズを引っ張って2の位置にします。そうすると時計(秒針S)が止まります。
2. リューズをいずれかの方向に回転させて時針Hと分針Mを適切な時間に合わせます。その際、午前/午後にご注意ください。

備考: 24時間形式の針Gは時針Hと一緒に動くため、時刻を設定する際は、必ず午前/午後を考慮するようにしてください。

時刻を設定する際、正しい時刻よりも4~5分進んだ位置まで分針Mを進めた後で、正確な分のところまで戻します。

3. リューズをIの位置に押し戻します。そうすると再び時計が動き出します。

曜日の設定方法*:

リューズがIの位置にある状態で、曜日を示す針Wが適切な曜日を指し示すまでボタンAを押します。この針は、ボタンを押す度に1日分進みます。

日付の設定方法*:

リューズがIの位置にある状態でボタンBを押し、日付を示す針Dを適切な日付に合わせます。この針は、ボタンを押す度に1つつ進みます。

*重要: 午後9:00~午前4:00の間に日付が自動的に変更されている時に、曜日や日付の設定を行わないでください。翌日に日付が自動的に切り替わらなくなるおそれがあります。

(7) 多軸モデル – タイプ C

月および日付を示す針、小さなGMT 24時間形式の針、日付表示付き



図 A

図の説明

1、2、3 – リューズの位置

ボタンA – 月インジケーターを素早く補正するボタン

ボタンB – 2つ目のタイムゾーン/24時間形式の針を素早く補正するボタン

H – 時針

M – 分針

S – 秒針

G – GMT 24 時間形式の針

D – 日付表示

W – 曜日表示の針

E – 月インジケーター

多軸モデルは、インダイヤルに月、曜日、日付などの情報を表示できる多機能ムーブメントによって駆動されます。これらの多軸モデルは時針、分針、秒針が中央に固定されており、小さな日付と月の表示、24時間形式の針、日付表示があります。

時間、分、24時間形式の時刻を設定する方法:

1. リューズを引っ張って3の位置にします。
2. リューズを時計回りに回転させて時針H、分針M、24時間形式のGを適切な時刻に合わせます。
3. リューズを1の位置に押し戻します。

2つ目のタイムゾーンを設定する方法:

1. リューズが1の位置にある状態でボタンBを押して24時間形式の針Gを適切な時刻に合わせます。この針は、ボタンを押す度に1時間分進みます。日付の設定方法: 1. リューズを引っ張って3の位置にします。
2. リューズを時計回りに回転させます: 日付表示Dは、時針と分針が真夜中(00:00)を過ぎる度に1ずつ進みます。
3. 適切な日付になったら、リューズを1の位置に押し戻します。

日付のクイック補正:

1. リューズを引っ張って2の位置にします。
2. リューズを時計回りに回転させ、日付表示Dに表示される値を素早く進めます。

3. 適切な日付になったら、リューズを1の位置に押し戻します。
注意: 時計の機構が損傷するおそれがあるため、午後9:00 (21:00) ~ 午前12:30 (00:30) の間に日付が自動的に変更されている時には、日付のクイック補正機能を使用しないでください。

曜日の設定方法:

1. リューズを引っ張って3の位置にします。
2. リューズを時計回りに回転させます: 曜日を示す針Wは、時針と分針が午前4:00 (04:00) を過ぎる度に1日分進みます。
3. 適切な曜日になったら、リューズを1の位置に押し戻します。

月の設定方法:

1. リューズが1の位置にある状態でボタンAを押し、適切な月にします。月を示す針Eは、ボタンを押す度に1か月進みます。
注意: 31日に自動で月が変更されている時には、月のクイック補正機能を使用しないでください。

(8) 多軸モデル – タイプ D

曜日/日付/月/昼夜表示付き



図 A

図の説明

1、2、3 – リューズの位置

E – 月インジケータ
W – 曜日表示の針
D – 日付インジケータ
K – 昼夜表示付き
H – 時針
M – 分針
S – 秒針

多軸モデルは、インダイヤルに月、曜日、日付などの情報を表示できる多機能ムーブメントによって駆動されます。このモデルには、曜日、日付、月を示す丸いインダイヤル、および日中/太陽、夜間/月あるいは現在時刻における昼夜を示す装飾的な太陽・月をあしらったインダイヤルがあります。

時刻と曜日の設定方法:

1. 秒針Sが12時の位置に来たらすぐにリューズを3の位置まで引き出し、時計(秒針)を止めます。
2. 曜日表示の針Wが適切な曜日を指すまで、リューズを時計回りに回転させて時針Hと分針Mを進めます。

備考: リューズを反時計回りに回しても曜日の針は戻りません。曜日の針を一気に進めるためには、時針と分針が午前4:00を過ぎるまでリューズを時計回りに回転させた後、各針が午後11:00を過ぎるまで反時計回りに回し、さらに真夜中を越えて午前4:00のところになるまで時計回りに回します。時針と分針が真夜中を越えて午前4:00のところに来る度に、曜日表示の針が1日分進みます。

3. 曜日の針Wが適切な曜日を指すようになったら、リューズを回して時針Hと分針Mを適切な時刻に合わせます。その際、午前/午後にご注意ください。

備考: 時針と一緒に昼夜表示ディスクKが動きます。時針を設定する際、昼夜表示ディスクが日中/太陽、夜間/月を正しく表示しているかどうか確認してください。分針を設定する際は、正しい時刻よりも4~5分進んだ位置まで進めた後で、正確な時刻のところまで戻します。

4. リューズを1の位置に押し戻します。そうすると再び時計(秒針)が動き出します。

日付と月の設定方法:

1. リューズを2の位置まで引っ張ります。時計(秒針)は止まりません。
2. リューズを反時計回りに回して日付を示す針Dを設定します。
備考: 午後9:00(21:00)~午前1:00(01:00)の間に日付が自動的に変更されている時に、日付を示す針を設定しないでください。日付が自動的に切り替わらなくなるおそれがあります。
リューズを反時計回りに回しても日付の針は戻りません。
3. リューズを時計回りに回して月を示す針Eを設定します。
4. リューズを1の位置に押し戻し、ケースに密着させます。

(9) アナログ・クロノグラフ

分/秒数カウンター/24時間形式の針/日付表示付き



図A

図の説明

I、2、3 – リューズの位置

ボタンA – 開始/を停
ボタンB – リセット

H – 時針
M – 分針
S – 秒針
C – 秒数カウンター
E – 分数カウンター
F – 24時間形式の針
D – 日付表示

クロノグラフには時間計測機能が2つあります：ダイヤルで時間を示すだけでなく、ストップウォッチのように時間を計測できます。これらのクロノグラフ・モデルには、分数カウンター（60まで）、秒数カウンター、24時間形式の針、日付表示が備わっています。これらを使用すれば、秒刻みで最大59分59秒までの時間を計測できます。

日時の設定方法：

備考：時刻を設定する前に、必ずストップウォッチ機能が停止しており、両方のストップウォッチの針が12時の位置（ゼロの位置）にあることを確認してください。

1. リューズを引っ張って2の位置にします。
2. 表示Dに適切な日付が表示されるまで、リューズを時計回りに回転させます。
3. 秒針Sが12時の位置に来た瞬間にリューズを3の位置まで引き出し、時計を止めます。

備考：ストップウォッチの針が動いてしまうため、ボタンAやBを押さないでください。

4. リューズをいずれかの方向に回転させて時針Hと分針M、24時間形式の針Fを適切な時刻に合わせてください。その際、午前/午後を考慮するようにしてください。

備考：24時間形式の針Fは時針Hと一緒に動くため、時間を設定する際は、24時間形式の時刻も正しく設定されるようにしてください。

5. 正確な時間を取得します（ラジオ放送局などから）。正確な時間を伝える放送に合わせて、リューズを1の位置に押し戻してください。そうすると、時間がぴったり合った状態で時計が動き始めます。

ストップウォッチの針をリセットする方法：

時刻の設定を行う前やストップウォッチを起動する前に、必ずカウンターの針CとEが12時の位置（ゼロの位置）にあることを確認するようにしてください。電池の交換後や不具合が生じた際、必要な場合はこれらの作業を行ってカウンターの針をリセットします。

1. リューズを引っ張って3の位置にします。
2. ボタンAを押してストップウォッチの秒針Cをゼロに設定します。ボタンAを押したままにすれば針Cを一気に動かすことができます。

備考：ストップウォッチの分針Eは自動的に秒針Cと同期されます。

3. ストップウォッチの針CとEがゼロの位置にリセットされたら、時間をリセットしてリューズを1の位置に押し戻します。

ストップウォッチの操作

このストップウォッチは、1秒刻みで最大59分/59秒の時間を計測・表示できます。また、60分間継続的に動いた後は、自動的に停止します。計測した時間はストップウォッチの分針Eと秒針Cによって示されます。また、これらの針は時分秒針や24時間形式の針とは別に動きません。

シンプルなストップウォッチ機能：

1. ボタンAを押してストップウォッチを開始します。
2. 再びボタンAを押してストップウォッチを停止します。
3. ボタンBを押してストップウォッチをゼロにリセットします。

累積時間機能：

複数の短い時間の合計を計測（例えば、度々中断されるバスケットボールの試合で実際のプレー時間を計測）する方法：

1. ボタンAを押してストップウォッチを開始します。
2. 再びボタンAを押してストップウォッチを停止し、経過時間を確認します。
3. さらにボタンAを押して計測を再開します。
4. 再びボタンAを押してストップウォッチを停止し、新たな経過時間を確認します。

備考：ストップウォッチを止める度に、各針が合計の累積時間を示します。

5. ステップ1と2を繰り返してインターバルを追加していきます。
6. 最終的な累積時間が得られたら、ボタンBを押してストップウォッチの針をゼロにリセットします。

ラップタイム機能：進行中のレースでラップタイムを計測する方法：

1. ボタンAを押してストップウォッチを開始します。
2. ボタンBを押して一時的にストップウォッチを停止し、ラップタイムを確認します。
3. ボタンBを押してストップウォッチ機能を再開します。そうすると、ストップウォッチの2本の針が現在の時間に素早く追いつきます。必要なだけステップ2と3を繰り返してラップタイムを追加していきます。
4. ボタンAを押してストップウォッチを停止し、最終的な時間を確認します。
5. ボタンBを押してストップウォッチの針をゼロにリセットします。

(10) アナログ/デジタル・クロノグラフ – タイプ A

アラーム機能付き



図 A

図の説明

I、2 – リューズの位置

H – 時針

M – 分針

S – 秒針

U – 上部デジタル表示

L – 下部デジタル表示

A – ELバックライト・ボタン

B – モード (選択/変更) ボタン

C – ストップウォッチ (セット/停止/リセット) ボタン

D – ストップウォッチ (開始/停止/追加) ボタン

これらのアナログ/デジタル・クロノグラフ・モデルでは、中央にアナログの時針、分針、秒針があり、さらに毎日のアラーム/時間毎のチャイム/スヌーズ機能、ラップタイム機能付き1/100ストップウォッチ、12/24時間形式の選択、ELバックライト機能を備えた12桁表示のLCD (液晶ディスプレイ) 画面が2つ搭載されています。

ボタンの用途

どのモードでも、ボタンAを押せばELバックライトが3秒間点灯します。

ボタンBを押せばモードを切り替える/選択することができます。

設定を調整したりストップウォッチを操作したりする際は、ボタンCとDを使用します。

備考: ボタンを1度押して離す作業を繰り返せば、表示中の情報を1ずつ進めることができます。ボタンを押したままにすれば、表示を一気に進めることができます。

アナログ時刻の設定方法:

1. リューズを引っ張って2の位置にします。
2. リューズをいずれかの方向に回転させて各針を適切な時間にセットします。
3. リューズを1の位置に押し戻し、ケースに密着させます。

デジタルモード

デジタル機能には4つのモード (リアルタイム、ストップウォッチ、アラーム、時間設定) があります。

モードを切り替える/選択する方法:

ボタンBを押して任意のモードに切り替えます。ボタンBを押す度に、次の順番でモードが切り替わります: B → リアルタイム (秒は点滅しません) → B → ストップウォッチ → B → アラーム → B → 時間設定 (秒が点滅します) → B → リアルタイム (秒は点滅しません)。備考: 他のモードで操作を行わない状態で1分間続けると、時計は自動的に「リアルタイム」モードに戻ります。

リアルタイム

上部デジタル表示には曜日がアルファベットで、月/日付が数字で表示されます (例: TH 6-23)。下部デジタル表示には時間/分/秒が数字で表示されます (例: 11:54:17)。

クロノグラフ

時計のストップウォッチ機能を使用すれば、最大23時間59分59.99秒まで時間を計測できます。

ストップウォッチの操作:

1. 「ストップウォッチ」モードになるまでボタンBを押します。左上に「ST」が、下部デジタル表示に「00 00 00」が表示されます。
2. ボタンDを押して計測を開始します。
3. 必要なだけボタンDを押してさらにストップウォッチを停止/再開/停止し、単一の出来事の合計時間を計測します。
4. 計測を終えてストップウォッチが止まったら、ボタンCを押してカウンターをゼロにリセットします。

ラップタイムを取る方法:

1. ストップウォッチが起動した状態でボタンCを押してラップタイムを取ります (進行中の出来事の一部の時間間隔を確認します)。
2. 再びボタンCを押して2番目のラップタイムを取ります。
3. 必要なだけステップ2を繰り返してラップタイムを取っていきます。
4. ボタンDを押してラップタイムのカウントとストップウォッチを停止します。
5. ボタンCを押してすべてのカウントを表示します。
6. 再びボタンCを押してカウンターをゼロにリセットします。

毎日のアラーム

時計のアラーム機能を設定すれば、1日に一度指定した時間に音を鳴らしたり (アラーム)、特定の時間に2度ビープ音を鳴らしたり (チャイム) することができます。

アラームを有効化する方法:

1. 「アラーム」モードになるまでボタンBを押します。左上に「AL」が、下部デジタル表示に現在のアラーム時刻設定が表示されます。
2. ボタンDを押してアラームやチャイムを有効化/無効化します。備考: アラームが有効な場合、下部ディスプレイの右上に小さな音波アイコン (🔊) が表示されます。チャイムが有効な場合、その隣 (下部ディスプレイの右上) に小さなベルのアイコン (🔔) が表示されます。

アラームの設定方法:

1. 「アラーム」モードになるまでボタンBを押します。
2. ボタンCを押して時間設定または分設定を選択します (選択中の項目が点滅します)。

3. ボタンDを押して設定を任意の時間に合わせます。
4. ボタンCを押して設定を確認します(項目が点滅しなくなります)。
5. 必要な場合はステップ3と4を繰り返し、残りの時間設定や分設定を調整します。
6. ボタンBを押して「リアルタイム」モードに戻ります。

スヌーズ機能を使用する方法:

アラームが鳴っている間にボタンCまたはDを押して音を停止した後、ボタンBを押せばスヌーズ機能を有効化/無効化できます。スヌーズ機能が有効な場合は5分後に再びアラームが鳴り、20秒後に自動的に鳴り止みます。

時間設定

このモデルのデジタル時間表示機能では、時間、分、秒に加えて、曜日、月、日を確認できるカレンダーも表示できます。

デジタル時間の設定方法:

1. 「時間設定」モードになるまでボタンBを押します。そうすると下部デジタル画面の秒表示が点滅し始めます。
2. ボタンCを押して、設定する項目を選択します(順序:時間→分→月→日→曜日→秒)。選択中の項目は点滅して表示されます。
3. ボタンDを押して点滅中の項目を設定します。
備考:時間を設定する際:画面の「H」という表示は24時間形式、「A」や「P」という表示は12時間形式であることを示します。ボタンDを押し続けると、24時間形式の時間から12時間の表示形式に切り替えることができます。
秒を設定する際:30~59の範囲にあたる秒数が表示されている時にボタンDを押すと、秒が00にリセットされ、分の表示が1つ進みます。秒数が00~29の範囲である時にDを押すと、秒は00にリセットされますが、分は変更されません。
4. ボタンBを押して「時間設定」モードを終了します。

バックライト

どのモードでも、ボタンAを押せばELバックライトが3秒間点灯します。

(II) アナログ/デジタル・クロノグラフ - タイプ B

アラーム機能付き



図 A

図の説明

1、2 - リューズの位置

- H - 時針
- M - 分針
- S - 秒針
- U - 上部デジタル表示
- L - 下部デジタル表示
- A - ストップウォッチ (開始/停止/調整) ボタン
- B - ストップウォッチ (セット/ラップ/リセット) ボタン
- C - モード (選択/変更) ボタン
- D - EL/バックライト・ボタン
- T - リューズ

これらのアナログ/デジタル・クロノグラフ・モデルでは、中央にアナログの時針、分針、秒針があり、さらに4つの表示モード (毎日のアラーム/時間毎のチャイム/スヌーズ機能、ラップタイム機能付き1/100ストップウォッチ、12/24時間形式の時刻表示、EL (エレクトロルミネッセンス) バックライト機能) を備えた12桁表示のLCD (液晶ディスプレイ) 画面が2つ搭載されています。

ボタンの用途

どのモードでも、ボタンDを押せばEL/バックライトが3秒間点灯します。ボタンCを押せばモードを切り替える/選択することができます。設定を調整したりストップウォッチを操作したりする際は、ボタンAとBを使用します。

備考: ボタンを1度押して離す作業を繰り返せば、表示中の情報を1ずつ進めることができます。ボタンを押したままにすれば、表示を一気に進めることができます。

モードを切り替える/選択する方法:

ボタンCを押して任意のモードに切り替えます。ボタンCを押す度に、次の順番でモードが切り替わります: C → リアルタイム (秒は点滅しません) → C → ストップウォッチ → C → アラーム → C → 時間設定 (秒が点滅します) → C → リアルタイム (秒は点滅しません)。備考: 他のモードで操作を行わない状態が1分間続くと、時計は自動的に「リアルタイム」モードに戻ります。

アナログ時刻の設定方法:

1. リューズTを引っ張って2の位置にします。
2. リューズTをいずれかの方向に回転させて各針を適切な時間にセットします
3. リューズTを1の位置に押し戻し、ケースに密着させます。

デジタルモード

デジタル機能には4つのモード (リアルタイム、ストップウォッチ、アラーム、時間設定) があります。

リアルタイム

上部デジタル表示には曜日がアルファベットで、月/日付が数字で表示されます (例: SU 1-1)。下部デジタル表示には時間/分/秒が数字で表示されます (例: 3:06:37)。

クロノグラフ

時計のストップウォッチ機能を使用すれば、最大23時間59分59.99秒まで時間を計測できます。備考: ストップウォッチ機能は、別の動作モードが有効になっている際もバックグラウンドで継続的に稼働します。

ストップウォッチの操作:

1. 「ストップウォッチ」モードになるまでボタンCを押します。左上に「ST」が、下部デジタル表示に「00 00 00」が表示されます。
2. ボタンAを押して計測を開始します。
3. 必要なだけボタンAを押してさらにストップウォッチを停止/再開/停止し、単一の出来事の合計時間を計測します。
4. 計測を終えてストップウォッチが止まったら、ボタンBを押してカウンターをゼロにリセットします。

ラップタイムを取る方法:

1. ストップウォッチが起動した状態でボタンBを押してラップタイムを取ります (進行中の出来事の一部の時間間隔を確認します)。左上のディスプレイに「SP」が表示されます。
2. 再びボタンBを押してカウントを再開します。そうすると時間の表示が現在までの経過時間に追いつきます。
3. 必要なだけステップ1と2を繰り返してラップタイムを取っていきます。
4. ボタンA、ボタンBの順に押してラップタイムのカウントとストップウォッチを停止します。
5. ボタンA、ボタンBの順に押してカウンターをゼロにリセットします。

毎日のアラーム

時計のアラーム機能を設定すれば、1日に一度指定した時間に音を鳴らしたり (アラーム)、特定の時間に2度ビープ音を鳴らしたり (チャイム) することができます。

アラームを有効化する方法:

1. 「アラーム設定」モードになるまでボタンBを押したままにします。左上に「AL」が、下部デジタル表示に現在のアラーム時刻設定が表示されます。
2. ボタンAを押してアラームやチャイムを有効化/無効化します。備考: アラームが有効な場合、下部ディスプレイの右上に小さな音波アイコン ())) が表示されます。チャイムが有効な場合、その隣 (下部ディスプレイの右上) に小さなベルのアイコン () が表示されます。

TOMMY HILFIGER
WATCHES

アラームの設定方法:

1. 「アラーム設定」モードになるまでボタンBを押したままにします。そうすると、時間設定の項目が点滅します。
2. ボタンAを押して時間設定を調整します。その際、ボタンを押したままにすると表示を一気に進められます。
3. ボタンBを押して設定を確定します。そうすると時間の項目が点滅しなくなり、分設定の項目が点滅し始めます。
4. ボタンAを押して分設定を調整します。その際、ボタンを押したままにすると表示を一気に進められます。
5. ボタンBを押して分設定を確定し、「リアルタイム」モードに戻ります。

スヌーズ機能を使用する方法:

アラームが鳴っている間にボタンAまたはBを押して音を停止させるか、ボタンCを押せばスヌーズ機能を有効化/無効化できます。スヌーズ機能が有効な場合は5分後に再びアラームが鳴ります。また、アラームは20秒後に自動的に鳴り止みます。

時間設定

このモデルのデジタル時間表示機能では、時間、分、秒に加えて、曜日、月、日を確認できるカレンダーも表示できます。

デジタル時間の設定方法:

1. 「時間設定」モードになるまでボタンCを押します。そうすると下部デジタル画面の秒表示が点滅し始めます。
 2. ボタンBを押して、設定する項目を選択します(順序:秒→時間→分→月→日→曜日)。選択中の項目は点滅して表示されます。
 3. ボタンAを押して点滅中の項目を設定します。その際、ボタンを押したままにすると表示を一気に進められます。
- 備考:時間を設定する際:画面の「H」という表示は24時間形式、「A」や「P」という表示は12時間形式であることを示します。ボタンAを押し続ければ、24時間形式の時間から12時間の表示形式に切り替えることができます。
- 秒を設定する際:30~59の範囲にあたる秒数が表示されている時にボタンAを押すと、秒が00にリセットされ、分の表示が1つ進みます。秒数が00~29の範囲である時にAを押すと、秒は00にリセットされますが、分は変更されません。
4. ボタンCを押して「時間設定」を終了し、「リアルタイム」モードに戻ります。

バックライト

どのモードでも、ボタンAを押せばELバックライトが3秒間点灯します。

(12) デュアルタイム・モデル - タイプ B

GMT 24時間形式の針/スモールセコンド/日付表示付き



図 A

図の説明

1、2、3 - リューズの位置

- H - 時針
- M - 分針
- S - 秒針
- F - 24時間形式の針
- G - 時針
- N - 分針
- D - 日付表示
- A - 各針を戻すボタン
- B - 各針を進めるボタン

日付表示付きのこれらのクォーツ式のデュアルタイム・アナログ時計には、小さな24時間形式の針F、時針Gおよび分針Mがあります。現地の時刻を中央に固定された時針H、分針M、秒針Sで示します。

リューズの位置:

- 位置1 - 通常動作時の位置。リューズがケースに押し込まれた状態です。
- 位置2 - 日付設定を行う位置。
- 位置3 - 時刻設定を行う位置。

現地時刻の設定方法:

1. 「秒針Sが12時の位置に来た瞬間にリューズを3の位置まで引き出し、時計を止めます。
2. リューズをいずれかの方向に回転させて時針Hと分針Mを適切な時刻に合わせます。その際、午前/午後を考慮するようにしてください。
3. 正確な時間を取得します(ラジオ放送局などから)。正確な時間を伝える放送に合わせて、リューズを1の位置に押し戻してください。そうすると、時間がぴったり合った状態で時計が動き始めます。

日付の設定方法:

備考: 日付を設定する前に現地時刻を設定してください。

1. リューズを2の位置に引っ張ります。
2. 日付窓Dに適切な日付が表示されるまで、リューズを時計回りに回します。
3. リューズを1の位置に押し戻します。

重要: 午後9:00~午前1:00の間に日付Dの設定を行わないでください。翌日に日付が自動的に切り替わらなくなるおそれがあります。このタイムゾーンに日付を設定する必要がある場合、このタイムゾーン外の任意の時/分に変更し、日付を設定してから、正しい時刻に設定し直してください。

備考: 31日未満の月の場合、翌月に日付をリセットする必要があります。

時刻の設定方法:

ボタンAとBを使用して時刻の表示を調整します。タイムゾーンが異なる国や地域に行く場合、時針Gをその国/地域の時に設定します。

時刻のクイック設定方法:

リューズが1の位置にある状態:
ボタンAを使って時針Gを反時計回りに回転させます。この針は、ボタンを押す度に1時間戻ります。
ボタンBを使って時針Gを時計回りに回転させます。この針は、ボタンを押す度に1時間進みます。

時刻の正確な調整方法:

1. 秒針Sが12時の位置に来た瞬間にリューズを3の位置まで引き出し、時計を止めます。
2. ボタンAまたはBを押して針Gを適切な時刻に設定します。ボタンAを使って時針Gを反時計回りに回転させます。この針は、ボタンを押す度に1時間戻ります。ボタンBを使って時針Gを時計回りに回転させます。この針は、ボタンを押す度に1時間進みます。
3. 時針Gが適切な時間を示したら、正確な時間を取得します(ラジオ放送局などから)。正確な時間を伝える放送に合わせて、リューズを1の位置に押し戻してください。そうすると、時間がぴったり合った状態で時計が動き始めます。

備考: このムーブメントの通常の機能として、分針Nは四分の一回転の終わり(15分)毎に1回転します。

各針の再調整方法:

電池の交換後や不具合が生じた際は、時間を設定する前に、時針Gと分針Nがゼロ(12時)の位置にあることを確認してください。いずれかの針が正しく揃っていない場合、以下のステップに従ってください。

1. リューズを3の位置に引っ張ります。
2. ボタンAとBを同時に3秒以上押してから離します。
3. ボタンAやBを使って各針をリセットします。ボタンを長押しすると、針が速やかに進みます。ボタンAを押して24時間形式の針Fを時計回りに回転させます。ボタンBを使って時針(12時間)Gと分針Nを時計回りに回転させます。これらの針が一緒に動きます。
4. 針3本すべてがゼロの位置でリセットされたら、リューズを1の位置に押し戻します。

備考: 分針Nが四分の一回転(15分)毎でなく1回転したら、ステップ1~4を繰り返します。

(13) 多軸モデル - タイプ E

日付/曜日の針付き



図 A

図の説明

1、2、3 - リューズの位置

H - 時針

M - 分針

S - 秒針

W - 曜日表示の針

D - 日付表示の針

多軸モデルは、インダイヤルに月、曜日、日付などの情報を表示できる多機能ムーブメントによって駆動されます。これらの多軸モデルは時針、分針、秒針が中央に固定されており、小さな曜日と日付の表示、日付のクイック補正があります。

時間の設定方法:

1. 秒針Sが12時の位置に来たらリューズを3の位置まで引き出し、時計(秒針S)を止めます。
2. リューズをいずれかの方向に回転させて時針Hと分針Mを適切な時刻に合わせます。その際、必ず午前/午後を考慮するようにしてください。
3. リューズを1の位置に押し戻します。そうすると、時計が動き出します。

日付のクイック補正:

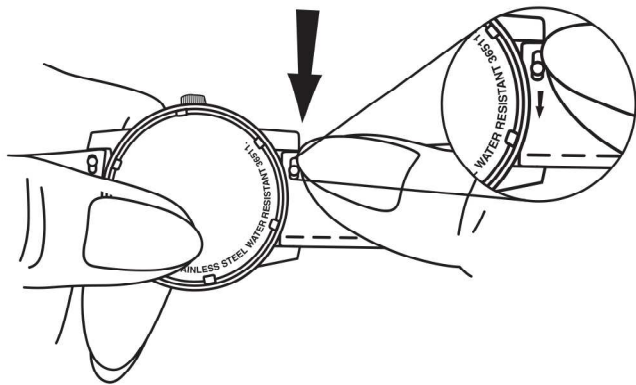
1. リューズを引っ張って2の位置にします。時計は動き続けます。
2. 日付表示の針Dが正しい日付を指すまでリューズを時計回りに回転させます。
3. リューズを1の位置に押し戻します。

重要: 午後9:00~午前1:00の間に日付Dの設定を行わないでください。翌日に日付が自動的に切り替わらなくなるおそれがあります。このタイムゾーンに日付を設定する必要がある場合、このタイムゾーン外の任意の時/分に変更し、日付を設定してから、正しい時刻に設定し直してください。

備考: 31日未満の月の場合、翌月に日付をリセットする必要があります。

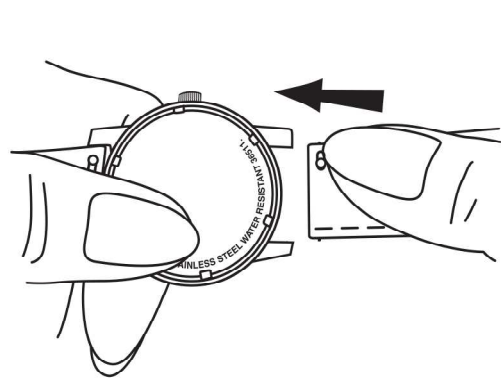
(A) 交換可能なブレスレット/ストラップモデル – タイプ A
テンションピン形式

ストラップの取り外し

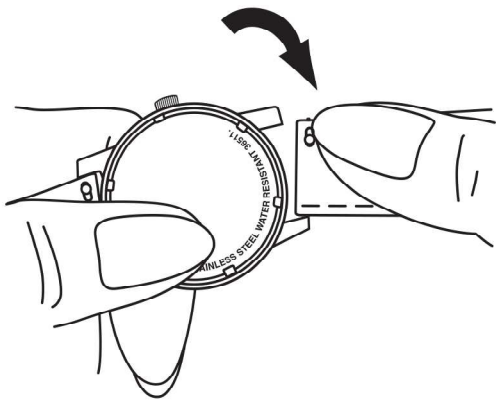


1A

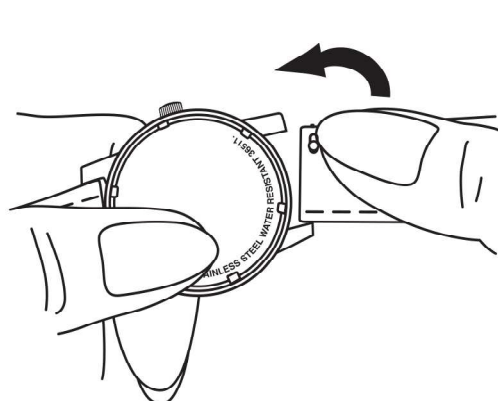
ストラップの付け替え



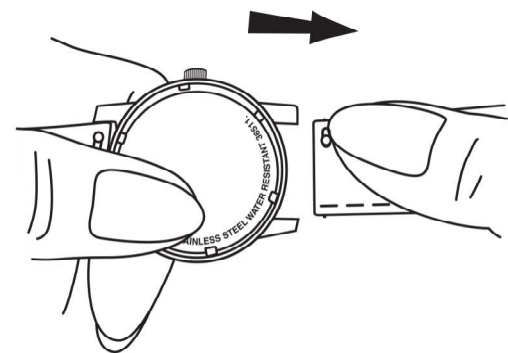
1A



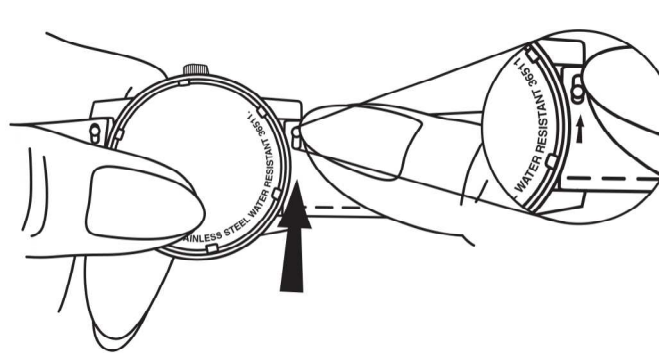
2A



2A



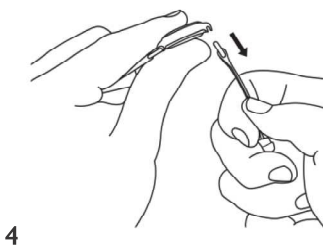
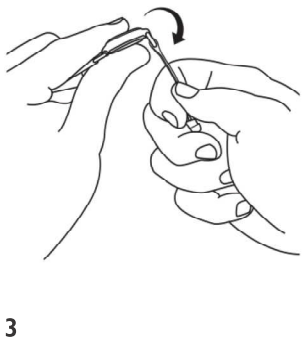
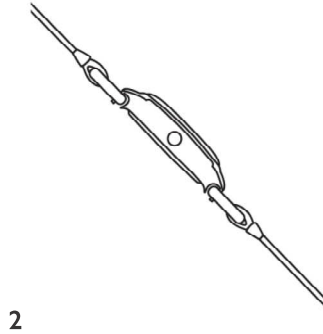
3A



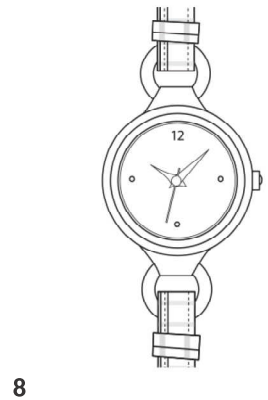
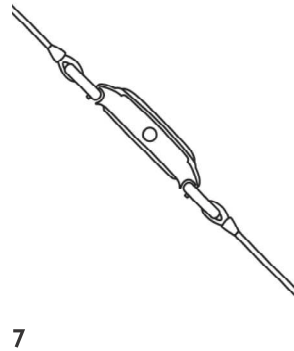
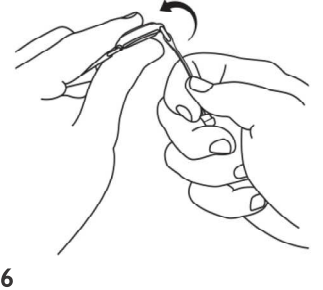
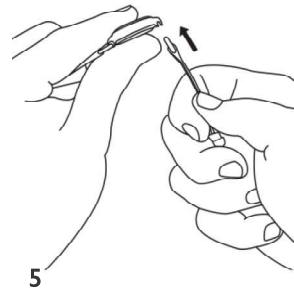
3A

(B) 交換可能なブレスレット/ストラップモデル – タイプ B
フックおよびバー形式

ストラップの取り外し



ストラップの付け替え



お手入れおよびメンテナンス

Tommy Hilfiger の腕時計は、品質、機能、ディテールに細心の注意を払いつつ製造されています。以下の内容、説明をよくお読みいただき、新しい時計の各機能、適切なお手入れ方法や取り扱い方法をしっかりと確認してください。サービスや修理の詳細な情報については、「サービスおよび保証」の箇所をご覧ください。

衝撃

弊社はすべての時計で衝撃に強いムーブメントを使用しており、衝撃耐性に関する国際標準を満たすよう、試験を行っています。

磁気

時計を強い磁気にさらすと時間が狂い、場合によっては停止するおそれがあります。クォーツ式の時計は、磁気から離すと元の精度で動作する状態まで回復しますが、自動巻きや手巻き式の時計の場合は、使用を再開する前に消磁作業が必要になることがあります。

防水性

弊社の時計はすべて、国際標準が規定する最低3バール (3 ATM / 30 M / 99フィート) の防水性を満たすよう、試験が行われています。そのため、ケース、リューズ、クリスタルガラスが損傷していないのであれば、水滴や雨によって不具合が生じることはありません。一部のモデルはさらに大きな水圧/水深に耐えることができ、その仕様がダイアルあるいはケースの背面に記載されています。しかし、ダイバーズ・ウォッチとして提供されていない時計を身に付けて水泳、シュノーケル、あるいはスキューバダイビングを行うことは推奨されません。

注意: 防水性が損なわれるため、時計が水中にある状態でクロノグラフ・モデルや多機能モデルの各ボタンを押したり、リューズを操作したりしないでください。

備考: レザーストラップを濡らさないようにしてください。レザーを水に濡らすと早期に摩耗および劣化することがあります。

時計が塩素や海水に触れた後は、清潔な水で湿らせた柔らかいクロスを使って時計を優しく拭いてください。

電池について

クォーツ式のアナログ時計あるいはクロノグラフには、時計専用に設計された電池が一つ付属しています。この電池は、通常の使用環境で約18~36か月間保ちます。

備考: クロノグラフ・モデルのストップウォッチ機能などの特殊な機能を頻繁にすると、電池の寿命が短くなることがあります。寿命が近づいた際の機能: 多くのモデルでは、電池がほぼ空になると秒針が4秒刻みで断続的に動くようになります。これにより、電池の交換が必要であることが分かります。

電池の交換: 認可済みのサービスセンターに時計を持ち込むか、時計を郵送して電池を交換してもらってください。使用済みの電池は適切に廃棄/再利用されます。ご自身で電池を交換しようとしないでください。

寿命を終えたクォーツ式時計の扱いおよび回収*

本製品を家庭ゴミとして廃棄することはできません。環境汚染や健康被害を避けるために、地域の適切な回収システムを通じてリサイクルに役立てる必要があります。

*EU参加各国および同様の法規制がある国のみに該当します。

TOMMY HILFIGER WATCHES

保証およびサービス

Tommy Hilfiger の腕時計はデザインが美しいだけでなく、高精度かつ安定したパフォーマンスを発揮できるよう、その一つ一つに質の高い素材や部品を使用しています。Tommy Hilfiger の腕時計をご購入いただいた皆様を、自信と責任を持ってサポートさせていただきます。

この限定保証では、電池、ストラップ、金プレーティングまたは仕上げ、擦り傷や日々の使用による損傷、さらに事故や不適切な使用により生じた、あるいはTommy Hilfiger Watch Companyまたはその認可済みサービスセンター以外のものによって行われたあらゆる改造、メンテナンスや修理により生じたあらゆる損傷は保証対象外になります。

小売店が提供するその他の保証については、小売店自身が全責任を負います。いかなる個人あるいは法人も、この保証の各条件を変更することはできません。この保証は、消費者に特定の法的権利を提供するものです。また、国や地域によって異なる可能性がある他の規制によって消費者に与えられた権利も尊重します。

サービスの利用

保証範囲内

保証サービスが必要な場合、時計を適切に梱包（以下を参照）し、(1) 購入時のレシートの原本および(2) 記入漏れのない「Tommy Hilfiger Watch サービスのリクエスト・フォーム」（このファイルに掲載）を時計と同封してお近くのTHWサービスセンターにお送りください。

ホームページ (www.mgiservice.com/tommyhilfiger) で「FIND AN AUTHORIZED WATCH REPAIR LOCATION」のリンクをクリックすれば、お近くの認可済みのサービスセンターを見つけることができます。

保証範囲外

THWサービスセンターは、THWの保証対象外となる修理や、保証期間が過ぎた後に各種サービスを提供することもできます。

お使いの時計について、保証条件の対象とならない部品やサービスが必要な場合は、文書による見積もりをお客様に送付し、お客様の了承を得て、お支払いを受け取った後で作業開始となります。このファイルのフォームをご利用ください。

電池の交換

THWサービスセンターは、お使いのTommy Hilfigerの腕時計の電池を交換することもできます。このファイルのフォームをご利用ください。

時計の梱包

クッション性のある梱包材でしっかりと覆い、衝撃から時計が保護されるようにして梱包してください。また、必ず記入漏れのない「Tommy Hilfigerの腕時計 サービスのリクエスト・フォーム」のコピーを添付してください。

時計への付保

書留郵便を使い、時計の価額がすべて補償されるようにすることが推奨されます。

その他のお願い

不良品の時計を購入元の店舗に返却しないでください。このファイルにある「サービスのリクエスト・フォーム」にご記入いただき、そのコピーと時計を併せてお近くのTHW認可済みサービスセンターにお送りください。

購入時のレシートの原本が製品と同封されており、かつ保証規約の適用範囲内で修理が行われる場合を除けば、どのような修理であっても代金が発生いたします。

TOMMY HILFIGER WATCHES 国外限定保証

TOMMY HILFIGER WATCHES 国外サービスのリクエスト・フォーム

名前 _____

住所 _____

都市 _____ 都道府県 _____

国 _____ 郵便番号 _____

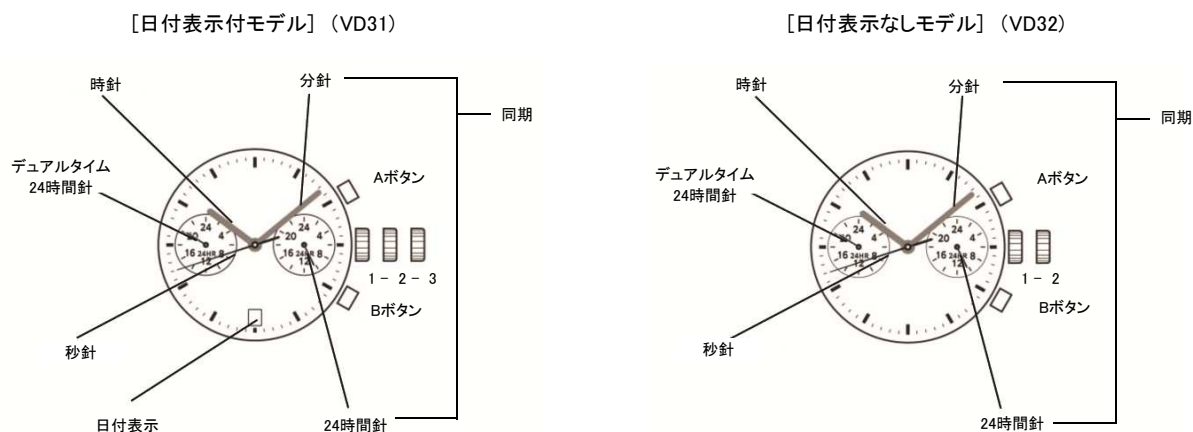
メールアドレス _____ 電話番号 (_____) _____

時計のモデル _____

サービス、交換、あるいは修理が必要なもの: _____

多軸モデル

日付/24時間のデュアルタイム /24時間形式の針付き



■時刻の設定方法:

- 1) 秒針が12時位置にあるときに、3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)まで引き出します。
- 2) リューズを回して時針と分針をセットします。(24時間針が正しく設定されていることを確認してください)。
- 3) 時報に従ってリューズを通常の位置(1の位置)に押し戻します。

注意: ※24時間針は時針に対応して動きます。

※日付が変わる瞬間は深夜です。時針を設定するときは、24時間針に連動して午前 / 午後を合わせて下さい。

■デュアルタイムの設定方法:

時差のある二つの地域の時間を表示することができます。

- 1) デュアルタイムの素早い調整方法 ※リューズは通常の位置(1の位置)にて操作します。
ボタンAまたはBを押して時間を調整します。
Aボタンを押すと、デュアルタイム24時間針が「-1」時間戻ります。
Bボタンを押すと、デュアルタイム24時間針が「+1」時間進みます。
- 2) デュアルタイムの細かい調整方法 ※リューズを3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)にて操作します。
Aボタンを押すと、デュアルタイム24時間針が「-10」分戻ります。
Bボタンを押すと、デュアルタイム24時間針が「-10」分進みます。
設定後はリューズを通常の位置(1の位置)に押し戻します。

■日付の設定方法(日付表示付モデルのみ):

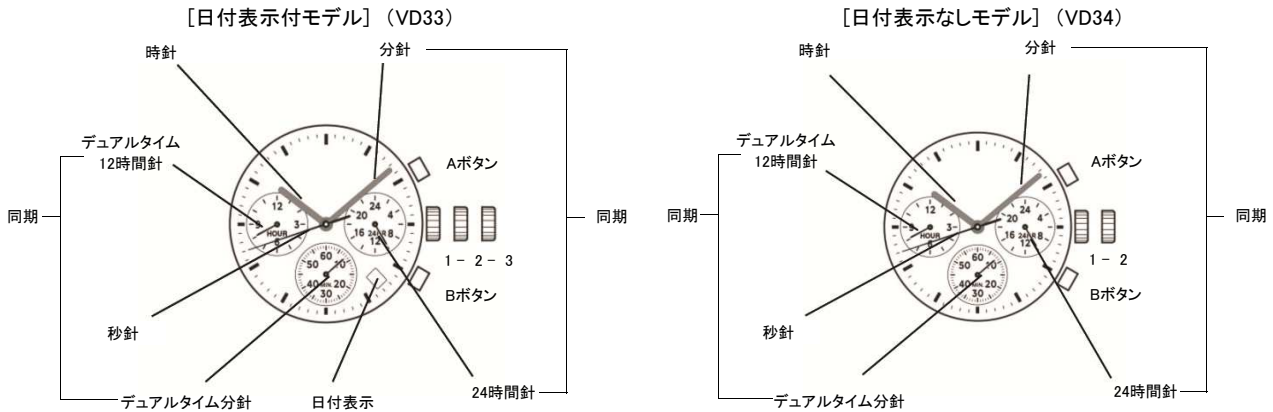
- 1) リューズを2の位置に引き、時計回りに回し日付を合わせます。
- 2) リューズを通常の位置(1の位置)に押し戻します。

※午後9時から午前1時までは日付を設定しないでください。

その時間中に日付を設定する必要がある場合は、最初に時刻を任意の時刻に変更し日付を設定してから正しい時刻に合せます。

多軸モデル

日付/12時間のデュアルタイム/24時間形式の針付き



注: Aボタンを押すとデュアルタイム分針が反時計回りに回りますが、ムーブメントの仕様ですので問題ありません。
デュアルタイム分針は、15分毎に1回転します。ムーブメントの仕様ですので問題ありません。

■デュアルタイムの位置の調整

※電池の交換後、時刻を設定する前に、時計と分針が「0」(12時)の位置にあるか確認してください。
※デュアルタイム12時間針またはデュアルタイム分針が「0」の位置にない場合は、以下の手順でリセットしてください。

- 1) リューズを 3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)まで引き出します。
- 2) AボタンとBボタンを同時に2秒以上押し続け、ボタンを離します。
*デュアルタイム分針が動き、元の位置に戻ります。
- 3) AボタンまたはBボタンを押して、デュアルタイム針を「0」の位置にリセットします。
※デュアルタイム時計とデュアルタイム分針は、それぞれのボタンを押し続けると素早く動きます。
*Aボタン: デュアルタイム12時分針が「-1」分戻ります。
*Bボタン: デュアルタイム12時分針が「+1」分進みます。
※デュアルタイム12時間針はデュアルタイム分針と連動して動きます。
- 4) リューズを通常的位置(1の位置)に押し戻します。

※デュアルタイム分針は、15分毎に1回転します。ムーブメントの仕様ですので問題ありません。

■時刻の設定方法:

- 1) 秒針が12時の位置にあるとき、リューズを3の位置に引き、いずれかの方向に回し時計と分針を適切な時間に合わせます。
その際、午前/午後にご注意ください。 ※24時間針も連動しますので、午前/午後を合わせます。
- 2) リューズを通常的位置(1の位置)に押し戻します。

■デュアルタイムの設定方法:

時差のある二つの地域の時間を表示することができます。

- 1) デュアルタイムの素早い調整方法
*リューズを1の位置でAボタンを押すと、デュアルタイム12時間針が「-1」時間戻ります。(デュアルタイム分針が連動して回転し始めます)
*リューズを1の位置でBボタンを押すと、デュアルタイム12時間針が「+1」時間進みます。(デュアルタイム分針が連動して回転し始めます)
- 2) デュアルタイムの細かい調整方法
*リューズを3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)で、Aボタンを押すと、デュアルタイム分針が「-1」分戻ります。
*リューズを3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)で、Bボタンを押すと、デュアルタイム分針が「+1」分進みます。

※Aボタンを押すとデュアルタイム分針が反時計回りに回りますが、ムーブメントの仕様ですので問題ありません。

※デュアルタイム分針は、15分毎に1回転します。ムーブメントの仕様ですので問題ありません。

■日付の設定方法(日付表示付モデルのみ):

- 1) リューズを2の位置に引き、時計回りに回し日付を合わせます。
- 2) リューズを通常的位置(1の位置)に押し戻します。

※午後9:00～午前4:00の間に日付が自動的に変更されている時に、曜日や日付の設定を行わないでください。翌日に日付が自動的に切り替わらなくなる可能性があります。
その時間中に日付を設定する必要がある場合は、最初に時刻を任意の時刻に変更し日付を設定してから正しい時刻に合わせます。

多軸モデル

日付/24時間のデュアルタイム/デュアルタイム分針付き



注:デュアルタイム分針は、15分毎に1回転します。ムーブメントの仕様ですので問題ありません。

■デュアルタイムの位置の調整

※電池の設定または交換後、時刻を設定する前に、時針と分針が「0」(12時)の位置にあるか確認してください。
 ※デュアルタイム24時間針またはデュアルタイム分針のいずれかが「0」の位置にない場合は、以下の手順でリセットしてください。

- 1) リューズを 3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)まで引き出します。
- 2) AボタンとBボタンを同時に2秒以上押し続けてから、ボタンを離します。
 *デュアルタイム分針が移動し、元の位置に戻ります。
- 3) AボタンまたはBボタンを押して、デュアルタイム24時間針とデュアルタイム分針を「0」の位置にリセットします。
 *Aボタン:デュアルタイム24時間針が時計回りに動きます / Bボタン:デュアルタイム分針が時計回りに動きます
 ※それぞれのボタンを押し続けると、デュアルタイム24時間針もしくはデュアルタイム分針が素早く動きます。
- 4) リューズを通常の位置(1の位置)に押し戻します。

※デュアルタイム分針は、15分毎に1回転します。ムーブメントの仕様ですので問題ありません。

■時刻の設定方法:

- 1) 秒針が12時位置にあるときに、リューズを3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)まで引き出します。
- 2) リューズを回して時針と分針をセットします。(24時間針が正しく設定されていることを確認してください。)
- 3) 時報に従ってリューズを通常の位置(1の位置)に押し戻します。

注意: ※日付が変わる瞬間は深夜です。時針を設定するときは、午前 / 午後を合わせて下さい。

■デュアルタイムの設定方法:

時差のある二つの地域の時間を表示することができます。

- 1) デュアルタイムの素早い調整方法 ※リューズは通常の位置(1の位置)にて操作します。
 ボタンAまたはBを押して時間を調整します。
 Aボタンを押すと、デュアルタイム24時間針が「-1」時間戻ります。
 Bボタンを押すと、デュアルタイム24時間針が「+1」時間進みます。
- 2) デュアルタイムの細かい調整方法 ※リューズを3の位置(日付表示付モデル)/ 2の位置(日付表示なしモデル)にて操作します。
 Aボタンを押すと、デュアルタイム分針が「-1」分戻ります。
 Bボタンを押すと、デュアルタイム分針が「+1」分進みます。
 設定後はリューズを通常の位置(1の位置)に押し戻します。

■日付の設定方法(日付表示付モデルのみ):

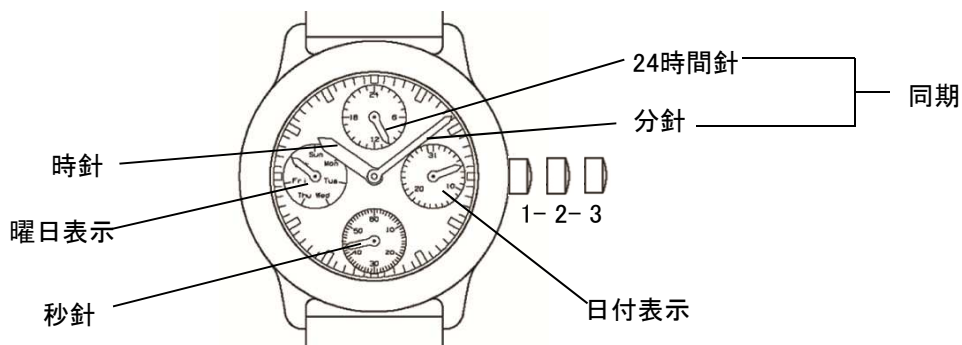
- 1) リューズを2の位置に引き、時計回りに回し日付を合わせます。
- 2) リューズを通常の位置(1の位置)に押し戻します。

※午後9時から午前1時までは日付を設定しないでください。

その時間中に日付を設定する必要がある場合は、最初に時刻を任意の時刻に変更し日付を設定してから正しい時刻に合わせます。

多軸モデル
曜日、日付、24時針付多軸モデル

[曜日、日付、24時針付多軸モデル] (VD74A)



■時刻の設定方法:

- 1) 秒針が12時位置にあるときに、クラウンを3の位置まで引き出します。
- 2) リューズを回して時針と分針をセットします。(24時間針が正しく設定されていることを確認してください)。
- 3) 時報に従ってリューズを通常的位置(1の位置)に押し戻します。

注意: ※24時間針は時針に対応して動きます。

※日付が変わる瞬間は深夜です。時針を設定するときは、24時間針に連動して午前 / 午後を合わせて下さい。

■日付のクイック設定方法

- 1) リューズを2の位置に引き、反時計回りに回し日付を合わせます。
- 2) リューズを通常的位置(1の位置)に押し戻します。

※午後10時から午前2時までは日付を設定しないでください。

その時間中に日付を設定する必要がある場合は、最初に時刻を任意の時刻に変更し日付を設定してから正しい時刻に合せます。

■曜日の設定方法

- 1) リューズを3の位置に引き、時計回りに回し、曜日を合わせます。
- 2) リューズを通常的位置(1の位置)に押し戻します。

※クイック設定がありませんので、時分針を回して設定する曜日まで回します。

注意:

時刻設定時にクラウンを反時計まわりに回すとき、日付針が動かされる場合があります。これは不具合ではありませんのでクイック日付設定により修正ください。